

学級活動（２）指導案

指導者 藤原 直樹

1. 日時・場所

平成26年12月3日（水）5校時 （14:00～14:45）

2. 学年・組

第3学年5組 28名（男子11名、女子17名）

3. 活動名

学級カレンダー「かがやきの足あと」でクラスを高めていこう

題材名

自分が発信したメッセージを正しく相手に伝えるには、どんな言葉の選び方がよいのかな

場に応じた言葉づかい

内容（２） イ 基本的な生活習慣の形成

4. 活動の背景

（１）子どもの実態

＜学級目標にかかわる子どもの実態＞

本学級では、学級目標「かがやこう！！3の2」を掲げ、「おもいやる心」「友だちを大切にする心」「チャレンジする心」の3つの目指すべき姿をクラスの成長の視点としている。学級では年度初めから、日々の自分たちの学級の成長を共有するために、そして節目節目で確かめ合うために、自分たちが目指すべき姿を学級カレンダーに書き留めている。

前期は、帰りの会で数名の児童が「友だちのすてきな姿・ところ」として口頭で発表し、係の児童がそれを参考にして、学級カレンダーに書き留めてきた。後期からは、学級の一人一人が今まで以上に自分たちの成長の姿に目を向け、全員がそれを発信できるようになった。しかし、全ての成長の姿を発表し、共有することはできず、学級カレンダーに書き留めることもできないことが悩ましい問題であった。

本学級には、夏休み明けより1人1台のタブレット端末を使用できる環境とこれらを無線でつながるネットワーク環境が整備されたので、タブレット端末に一人一人が自分たちの成長を毎日書き込み、それを共有できるようになった。子どもたちは一人一人が、前期以上に自分たちが目指すべき姿を意識するようになってきている。

＜本題材にかかわる子どもの実態＞

一般に「コミュニケーション」とは、双方向のやりとりの中で形成されるものであるが、相手を想定して、自分が伝えたいことや発信したいことを何らかの形で表現することも「コミュニケーション」の形の一つととらえ、自分が発信したメッセージを相手に正しく伝えるための言葉を選ぶことができることが必要といえる。子どもたちは、国語科の学習をはじめ、多くの学習の中で、相手意識をもった発表を行ったり、互いの考えを言い合ったりしている。しかし、そのほとんどは相手を目の前にした対面コミュニケーションである。友達文章・書き言葉だけで、相手に自分の伝えたいことを分かりやすく正確に表現するという非対面コミュニケーションの場面は多くない。

また、情報機器を用いたコミュニケーションの実態としては、本学級の児童28名の内、13名が保護者から与えられた携帯電話を用いて、保護者とメールやメッセージのやり取りを行っている。現在は、親子という特定の関係の中で、ある程度、使用目的（「何時に帰る」「どこにいる」などの報告など）が制限された上で、文字による非対面コミュニケーションを行っているが、相手との関係性や目的が多様になったときも対応できるコミュニケーション力を身に付けることが必要となってくる。

（２）教師の思い・願い

子どもたちを取り巻く環境や実態から、今後は、学年が上がっていくにつれて、このような情報通信機器を用いての文字による非対面コミュニケーションを行う人数や機会が増えていくことが予想される。また、今現在は、そのやり取りは親子間であることがほとんどであるが、文字による非対面コミュニケーションの対象が親子やきょうだいから、友達や家族外の人と広がっていくであろう。

子どもたちは、学校生活の様々な場面で、他者との対人コミュニケーションをしているが、そのほとんどは会話によるものであり、話し言葉による対面コミュニケーションである。

対面のコミュニケーションでは、目の前の相手に対して、自分が伝えたいことを発信するときには、その表情や態度を見たり感じたりしながら、言葉を付け加えたり、言い換えたりすることができる。さらに、「あの」や「その」などの指示語とともに、指差したり、自身の動作や表情、声色などと合わせたりして表現をすることもできる。逆に、非対面コミュニケーションでは、自分が発信した文字や書き言葉からしか、相手は情報を得ることができないので、非対面コミュニケーションの特徴を知り、より適切な非対面コミュニケーションができる力を付けていく必要があり、非対面という場・環境に応じた言葉づかいができるようにしていきたい。

5. 活動のねらい

自分が発信したメッセージが正しく相手に伝わるには、どんな言葉づかいがよいのかを友達と一緒に考え、自分のめあてを決めて実践することを通して、場に応じた言葉づかいができる基本的な生活習慣を身に付けることができる。

6. 評価規準

(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全

集団活動や生活への 関心・態度・意欲	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるための自己の生活の充実と向上にかかわる問題に関心を持ち、自主的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ、そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。
イ 基本的な生活習慣の形成		
集団活動や生活への 関心・態度・意欲	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活上の問題に関心を持ち、学級の一員としての自覚をもって、意欲的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。	日常の生活や学習における課題について話し合い、きまりを意識しながら自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	きまりを守りながら、日常生活を気持ちよく送ることの大切さ、そのためのよりよい生活や学習の仕方について理解している。
○本活動の評価規準		
集団活動や生活への 関心・態度・意欲	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
1日の学校生活で見つけた学級の成長の姿を、共有するために、どのような言葉の選び方をすればよいのかに関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	1日の学校生活で見つけた学級の成長の姿を、共有するために、どのような言葉の選び方をすればよいのかについて考え、判断し、実践している。	多くの人に自分から情報発信するときには、場に応じた言葉の選び方があることを理解している。

7. 本時のねらい

学級カレンダー「かがやきの足あと」へ記載するメッセージについて、例文を改善する活動を通して、メッセージが正しく相手に伝わるには、どんな言葉の選び方がよいのかを友達と一緒に考え、基本的な生活習慣（場に応じた言葉づかい）を身に付けることができる。

8. 本時の展開

流れ	子どもの活動と内容	教師の支援
事前	[問題の共通化] ○クラスの成長のためには、「かがやきの足あと」の文章を、相手に正確に伝えることが必要だという共通の問題意識をもつ。	学級カレンダーに自分たちの姿を残していくことの意義を、児童全員がとらえられるように、いつでも目にするができる掲示を行う。
本時	[話し合い・自己決定] 1. 本時の学習課題を確認する。 メッセージを正しく相手に伝えるには、どんな言葉のえらび方がよいのかな 2. 教師が用意したメッセージの例文を読み、正しく分かりやすく伝える言葉に換える。 ・教師が用意した例文をテレビ画面に映し、児童全員で共有する。 <例文の問題点> ・主語がない。 ・言葉が不足している。 ・場面や状況によって、捉えられ方が変わってしまう言葉がある。 ・二重否定の文になっている。 ・教師用タブレットからグループ毎に異なる例文を配信する。 ・配信された例文を読み、正しく分かりやすく伝える言葉に換える。 3. 一人一人が修正した言葉づかいを基にして、グループでの最適解を決める。 ・一人一人がタブレット上で修正した文章・言葉を基に、グループでの最適な文章・言葉を決定して、教師用タブレットに送信する。 4. グループ毎に修正した文を全体で共有し、分かりやすく伝えるために大切なことを考える。 <言葉のえらび方> ・主語を書く。 ・ぬけがないように書く。 ・ぐたいてきに書く。 ・短い言葉で書く。 5. この時間で学んだことから、自分のめあてを決めて、今日のメッセージを書く。	・メッセージの例文は教師が作成し、情報の不確かさや曖昧さに目が向く例文を扱う。 ・これまでの子どもたちの記述文章の中で、内容が伝わりにくくなっていたときの「言葉の選び方」を基にして、例文を作成する。 ・グループ（4人）で同じ例文を考えることで、例文の問題点に気付いたり、改善のためにどんな言葉の選び方がよいのかについて考えが広がるようにする。 ・元の文は黒板に掲示し、グループ毎に考えた最適な文章・言葉はテレビ画面に投影して、比較できるようにする。 ・例文の問題点を改善することで、これからの自分たちの行動（言葉の選び方）の具体的なめあてにする。
事後	[実践] ○「言葉の選び方」のめあてに向けて取り組む。 [振り返り] ○自分たちのメッセージが伝えたいことが伝わる文章になってきていることを知る。 ○めあてについて振り返り、これからも続けていこうとする	・自分が決めためあてを掲示し、日常的に意識できるようにする。 ・タブレットに書き込んだ日々のメッセージを定期的に一覧で振り返り、自分のメッセージが自分の伝えたいことが伝わる文章になってきていることを確かめる時間を確保する。

4つの課題と8つのビデオ教材

4つの課題（テーマ）について、それぞれ2つずつのビデオ教材が用意されている。

授業に集中していない生徒がいる

ゲームばかりしている

通話アプリの利用が増えた

自己管理について考えさせたい

ネット詐欺に遭った生徒がいる

不正請求の仕組を考えさせたい

個人情報の重要性を理解させたい

無料の仕組を考えさせたい

ネット詐欺に遭った生徒がいる

不正請求の仕組を考えさせたい

個人情報の重要性を理解させたい

無料の仕組を考えさせたい

無料通話アプリを使う生徒が多い

安全に使うためのルールを考えさせたい

ネット依存

過度なインターネットの利用（コンテツ視聴やゲーム、SNS等）により、生活習慣が乱れ、日常生活に大きな支障を来す。

ネット被害

ネット詐欺・不正請求、コンピュータウイルスへの感染など、インターネットの利用を通じて、児童生徒がこれまでにない被害に巻き込まれている。

SNS等のトラブル

スマートフォンやSNS等の新たな情報通信技術の利用を通じたトラブルについて、相手とのやりとりの中で発生する問題について考える。

適切なコミュニケーション

相手や状況に応じて、コミュニケーション手段や状況に選ぶことや相手への思いやりが必要であることを理解し、よい関係のあり方を考える。

教材

① ネットゲームに夢中になると...



p.30

② 身近にひそむネット依存



p.38

③ 個人情報を守るのは自分だよ



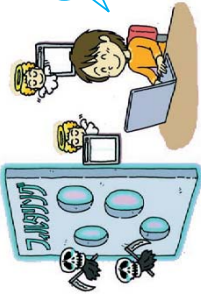
p.46

④ ネット詐欺などに巻き込まれないようにするために



p.52

- 児童生徒のICT機器利用 ⇨ p.6
- 児童生徒のインターネット利用 ⇨ p.7
- ネット依存 ⇨ p.10
- コラム「ネット依存」 ⇨ p.37



インターネットの特性を理解することが大切

⑤ ひとりよがりの使い方に注意しよう



p.62

⑥ 情報の記録性、公開性の重大さ



p.68

- 児童生徒のサービス・アプリケーション利用 ⇨ p.8
- スマートフォンやSNSなど新しいメディアの影響 ⇨ p.12



相手のことを考えたり、思いやることが大切

⑦ うまく伝わったかな！



p.74

⑧ 自分自身のコミュニケーションのルールを作ろう



p.80

関連する資料

[参考] 情報モラル指導モデルカリキュラム

(平成 18 年度文部科学省委託事業「情報モラル」指導実践キックオフガイド』より)

〈大目標・中目標レベル〉

この表は、情報モラルの指導カリキュラムの内容を小中高一貫のモデルカリキュラムとして示したものです。このモデルカリキュラムの目標は、学校教育全体の中で達成していくことが望ましく、本モデルカリキュラムを参考に、それぞれの学校では、地域の実情に合わせ、情報モラルのカリキュラムを組み立て、実施してください。

各目標の詳細は、Webページをご覧ください。<http://www.japet.or.jp/moral-guidebook/>

分類	L1：小学校1～2年	L2：小学校3～4年	L3：小学校5～6年	L4：中学校	L5：高等学校
1. 情報社会の倫理	a1～3：発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ			a4～5：情報社会への参画において、責任ある態度で臨み、義務を果たす	
	a1-1：約束や決まりを守る	a2-1：相手への影響を考へて行動する	a3-1：他人や社会への影響を考へて行動する	a4-1：情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する	a5-1：情報社会において、責任ある態度をとり、義務を果たす
	b1～3：情報に関する自分や他者の権利を尊重する			b4～5：情報に関する自分や他者の権利を理解し、尊重する	
2. 法の理解と遵守	b1-1：人の作ったものを大切にすることを覚える	b2-1：自分の情報や他人の情報を大切にすることを覚える	b3-1：情報にも、自他の権利があることを知り、尊重する	b4-1：個人の権利（人格権、肖像権など）を尊重する	b5-1：個人の権利（人格権、肖像権など）を理解し、尊重する
				b4-2：著作権などの知的財産権を尊重する	b5-2：著作権などの知的財産権を理解し、尊重する
	c2～3：情報社会でのルール・マナーを遵守できる			c4：社会は互いにルール・法律を守ることによって成り立っていることを知る	c5：情報に関する法律の内容を理解し、遵守する
3. 安全への知恵	d1～3：情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる			d4～5：危険を予測し被害を予防するとともに、安全に活用する	
	d1-1：大人と一緒に使い、危険に当たったときは、大人に意見を求め、適切に対応する	d2-1：危険に出合ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する	d3-1：予測される危険の内容がわかり、避ける	d4-1：安全性の面から、情報社会の特性を理解する	d5-1：情報社会の特性を意識しながら行動する
	d1-2：不適切な情報に出合ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する	d2-2：不適切な情報に出合ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する	d3-2：不適切な情報であるものを認識し、対応できる	d4-2：トラブルに遭遇したとき、主体的に解決を図る方法を知る	d5-2：トラブルに遭遇したとき、さまざまな方法で解決できる知識と技術を持つ
4. 情報セキュリティ	e1～3：情報を正しく安全に利用することに努める			e4～5：情報を正しく安全に活用するための知識や技術を身につける	
	e1-1：大人と一緒に使う、危険に当たったときは、大人に意見を求め、適切に対応する	e2-1：情報の正確さを判断する方法を知る	e3-1：情報の正確さを判断する方法を知る	e4-1：情報の信頼性を吟味できる	e5-1：情報の信頼性を吟味し、適切に対応できる
	e1-2：知らない人に、連絡先を教えない	e2-2：個人の情報は、他人にも教えない	e3-2：自他の個人情報、第三者にも教えない	e4-2：自他の情報の安全な取り扱いに關して、正しい知識を持って行動できる	e5-2：自他の情報の安全な取り扱いに關して、正しい知識を持って行動できる
5. 公共的なネットワーク社会の構築	f1～3：安全や健康を害するような行動を抑制できる			f4～5：自他の安全や健康を害するような行動を抑制できる	
	f1-1：決められた利用の時間や約束を守る	f2-1：健康のために利用時間を決める	f3-1：健康を害するような行動を自制する	f4-1：健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる	f5-1：健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる
			f3-2：人の安全を脅かす行為を行わない	f4-2：自他の安全面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる	f5-2：自他の安全面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる
6. 情報セキュリティ	g2～3：生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る			g4～5：情報セキュリティに関する基礎的・基本的な知識を身につける	
	g2-1：認証の重要性を理解し、正しく利用できる	g3-1：不正使用や不正アクセスされないように利用できる	g3-2：不正使用や不正アクセスされないように利用できる	g4-1：情報セキュリティの基礎的な知識を身につける	g5-1：情報セキュリティに関する基本的な知識を身につける
	h2～3：情報セキュリティの確保のために、対策・対応をとれる			h4～5：情報セキュリティの確保のために、対策・対応をとれる	
7. 公共的なネットワーク社会の構築	i2～3：情報社会の一員として、公共的な意識を持つ			i4～5：情報社会の一員として、公共的な意識を持ち、適切な判断や行動ができる	
	i2-1：協力し合ってネットワークを使う	i3-1：ネットワークは共用のものであるという意識を持って使う	i3-2：ネットワークは共用のものであるという意識を持って使う	i4-1：ネットワークの公共性を意識して行動する	i5-1：ネットワークの公共性を維持するために、主体的に行動する

※コードについて (例: a1-1)

【1】科目の文字

a：大目標項目

【2】科目の数字

校種・学年 (L1～L5)

1：L1 (小学校低学年：1～2年生)

2：L2 (小学校中学年：3～4年生)

3：L3 (小学校高学年：5～6年生)

4：L4 (中学校 (高等学校を含む場合もある))

5：L5 (高等学校)

【3】科目の数字 (ハイフンの後の数字)】

たとえば、コードa1-1は次を表す。

大目標項目a1：発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ (小学校1～2年生)

中目標項目a1-1：約束や決まりを守る (小学校1～2年生・大目標項目a1の1番目の中項目)

